

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1997 12・1
1998

新年を迎えて 創立40周年記念事業 頑健な体質づくりと将来のために

理事長 泉 修二

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様や多くの関係者のご協力で、新年を迎えることができますことを厚くお礼申し上げます。

21世紀を指呼の間に望む本年度は、私たち JID に
とって創立40周年の年でもあります。協会発足当初から
見ますと、環境、経済、技術などの変革のスピードは、
この数年、過去の5年、10年に当たるほど、めまぐるしく動いています。

この意味では、私たちの活動が世界経済と地球環境と
いうグローバルな視点と、会員個々を含めたインテリア
・デザインのディスクリートな対応を、同時に確立する
時代にあります。インテリア・デザインの領域で20世紀
後半を支えた私たちが、何を、如何に21世紀に手渡し、
育てて行けるのかが問われているときだと言えます。

私たちは体質改善と将来への基礎づくりの努力を続け
てきましたが、40周年記念事業は、さらに確固とした内容
を内外に提示できる機会だと促えています。

来る5月の通常総会における「40周年宣言」を始めと
して、11月24日の創立記念日を中心に、20世紀のデザイ
ン活動評価である「20世紀・日本の近代デザイン巡回
展」(仮称)、会員のデザイン活動を軸に将来を望む
「JID 展」(仮称)、さらに、組織内部から対外までに

「目 次」

特集／新年を迎えて

- 創立40周年記念事業 頑健な体質づくりと将来の
ために 1
- 秋田のデザイン界の息吹 2
- 大きな仕事、小さな仕事じつくりと 2
- デザインワークとデザインフィー 3
- 自然を大切にする優しさと行動を 4
- 事務所開設10周年とこれから 5
- Health Care Design—癒しの医療環境創り— 5
- 飛驒の匠／家具とクラフトのつながり 6
- サッカーのエネルギーとリズム 6
- 10才若返りの毎年 7
- デザイン教育、進路・就職指導の現場から 7
- 私が目指すインテリアショップ 8
- ものの価値観 8

- 1997年「JID 賞」を受賞して／柏木浩一 9
- 1997年「JID 賞」を受賞して／松本浩作 10
- JID NEWS 創刊200号を迎えて／樋口 治 11
- JID NEWS 創刊200号を迎えて／村尾平格 12
- (社)国際家具産業振興会創立40周年記念特別
ビジネスセミナーを終えて 12
- 創立40周年記念事業について(1) 13
- 村田清包さんを偲ぶ 14
- 平成9年度第4回理事会報告 15
- シンポジウム「健康な住まいと素材」開催の
お知らせ 18
- 会員の異動 19
- JID NEWS関東 20
- JID NEWS中部 22
- JID NEWS関西 24
- JID NEWS九州 26

亘る複数のシンポジウムや出版などを計画しています。

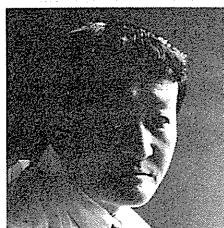
記念事業を成功させるということより、頑健な体質づくりと将来のために、ぜひ、会員諸氏と関係者の方々にご協力をお願いいたします。

40周年記念・事業年の元旦にあたって。

新年を迎えて 秋田のデザイン界の息吹

関東事業支部会員 佐藤 均

この誌上をお借りして、初めて
会員の皆様にお会いいたします。
30数年地方のインテリアデザイナーとして過ごして参りましたが、
秋田のインテリアデザインを含め
た現在のデザイン事情を簡単に述べて見ようと思います。



まず社会的な評価ですが、今日の情報化時代の中で、
中央の秀れたデザインには日常的に接しており、商業活動
や製品開発、各種キャンペーンを通して、「デザイン」
が大事な要素であることには、一定の認識を示してく
れています。しかし、デザイン料がそのための必要経費
であることは、仲々納得出来ない面があるようです。

教育の面では、高等教育施設としては、教員養成のため
の大学を除いては、つい3年前まで、秋田市立美術工
芸専門学校があるだけでした。従って、デザイナー志望
の青年は、大半が中央の学校を目指し、卒業後も、事情
があるにせよ秋田で活動する人は少ないようです。これ
が実力あるデザイナー不足、デザインの質の低迷をもた
らす一因になっているのかも知れません。

商業施設に関しては、大規模小売店の進出もあって、
デザイナーの仕事は増えましたが、今だに中央尊崇の気
持が強いようで、地元デザイナーの発奮が望まれるところ
です。

秋田に限らず地方都市の共通事情でしょうが、地元の
デザイナーにとっては厳しい状況です。

しかし、そのような私共にとって明るい展望も開けて
参りました。それは建築を含めたデザインの諸団体「秋
田・テクノポリス」と「秋田公立美術工芸短期大学」が
設立され、各種のフォーラムやイベントが行われたこと

です。そして今年の夏頃には「文化デザイン会議」が秋
田で開催される予定で、地域おこしのイベントとして、
69市町村の観光、物産を扱った「ストアデザインコンテ
スト」が行われます。

今後はこれらの活動が積み重なって、市民とデザイ
ナー相互の認識が深まり、秋田のデザイン界が新しい発
展のレールに乗れることを期待出来そうであり、さらに
それが、全国の会員、デザイナーの方々との直接的な交
流につながればと願っています。

新年を迎えて 大きな仕事、小さな仕事じっくりと

関東事業支部会員 関口 洋司

新年明けましておめでとうございます。
初めての寄稿となります
が、今後ともよろしくお願いいたします。

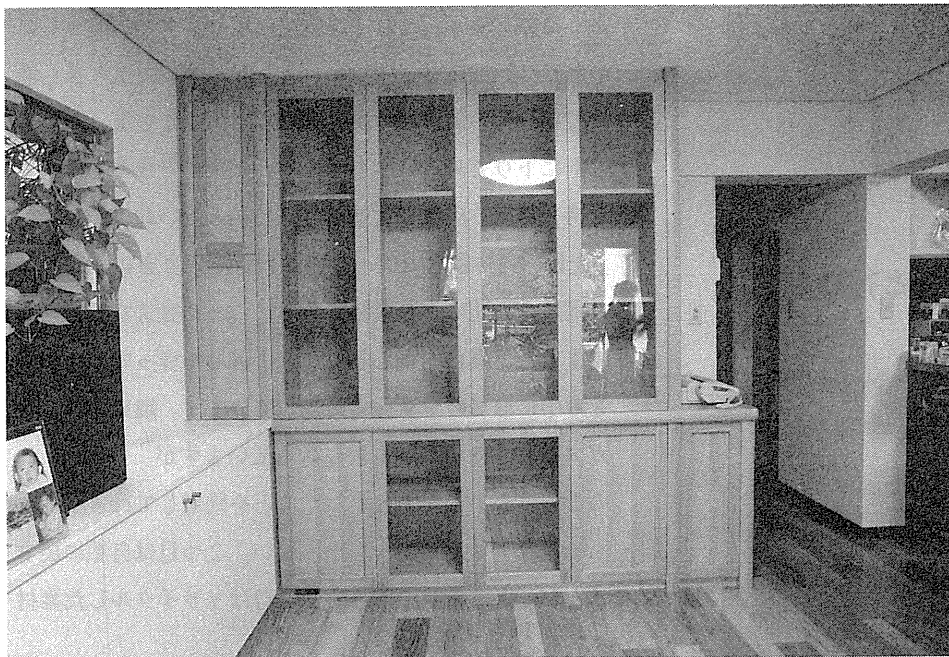


私は今、第二の故郷ともいえる
北海道で、大型商業施設の内装監理業務に携わっていま
す。普段は法人の役員応接室や保養施設及びホテル等の
FFE の設計監理、施工管理を手掛けていますが、最近
の商環境においては、設備投資が直接、業績に反映され
る商業施設が元気で、私の勤務先もそれらに積極的に取
組んでいます。

それにしても、この「内装監理」という仕事は実に面白
く、刺激的な毎日を送っています。クライアントの持
つストアコンセプトにストアイメージ、機能、環境設備
等の肉付けを行い、さらにそれを実施設計、施工にまで
詰めてゆく現場でのリアルなデザイン作業には、様々な
専門家が集うことになります。従って、私の前には勉強
しなければならないことが山積み状態で、仕事を覚え
ないうちに終わってしまうのではないかと、そんな思いさ
え抱いてしまいます。

そこで、私の気分転換は、知人の自宅やオフィスの改
装と、そこに造り付ける家具を設計することです。無償
で行うことが殆どですが、旭川の学生時代に学んだ知識
を充分に発揮出来る貴重な仕事です。

今年も大きな仕事と小さな仕事の波にじっくりと乗り



友人宅・リビングルームの造りつけキャビネット・関口洋司

ながら、さらに新しいことに挑戦してゆきたいと考えています。今年が会員の皆様にとって、素晴らしい年でありますよう、お祈り申し上げます。

新年を迎えて デザインワークとデザインフィー

関東事業支部会員 高石 芳子

新年を迎える時期になると、人並に今年こそはと思いつつ、やはり煩雑な日常に流されている内にまた1年が過ぎてしまい、「そんなものよ」と開き直って、師走の慌だしさの中で走り廻っている自分を見出します。



私がインテリアを学び始めた頃は、決まって「インテリアって何ですか？」と聞かれた時代でした。夢中で走ってきて、ふと気付くと、人生の半分をインテリアに係わってきた今、『インテリア』という言葉は、何の注釈や疑問符をつけられることなく通用しています。けれどもそれは、『インテリアデザイン』と言う仕事が充分理解されたこととは、全く別次元のことのように思われます。

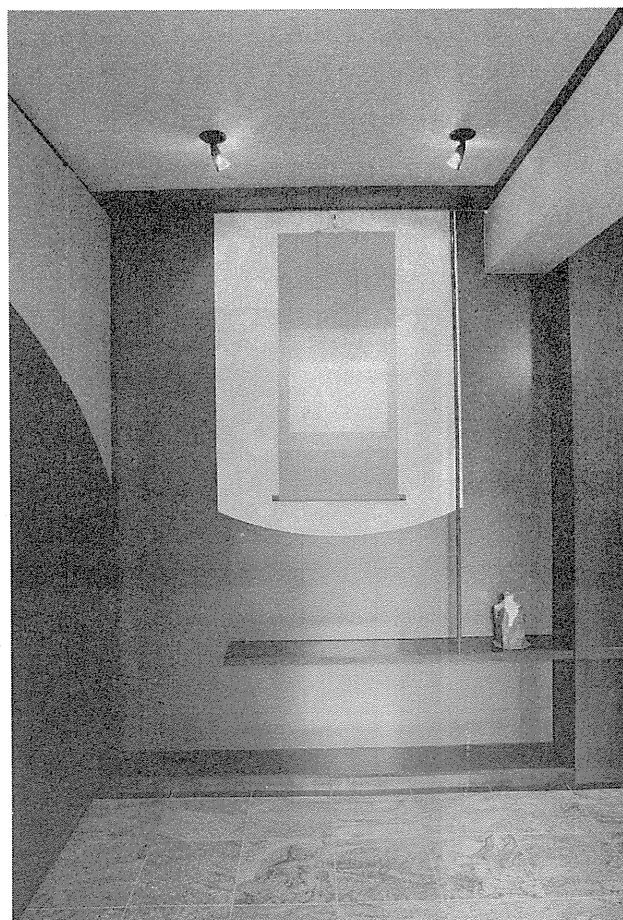
長年浸透させたいと考えてきたデザインフィーと言う観念も、今だ殆ど認知されていせん。相変わらず、住宅

メーカーやインテリアアイテムの販売時のサービスというスタンスから抜け出してのビジネスは難しく、フリーで働くデザイナーが、その中で翻弄されている状況も全然変わっていないことに気付きます。

エンドユーザーの関心も、以前よりは高まってきたとはいえ、極端な収納テクニックに走ったり、やたら飾りたてることがインテリアだと言う思い違いが多く見られます。

建築業界の中で、インテリアデザインをどうビジネスとして成立させていけるのか、

エンドユーザーの意識をどう啓蒙し、レベルアップしていけるか、値引率を前面に商売をする販売店に対して、デザイナーに依頼することのメリットを、どう理解してもらえるか、等々の問題をクリアし、デザインという仕



近作／某住宅の玄関ホール
和のテーストをアレンジしたしつらえ・高石芳子

事が認められる環境・力のあるデザイナーにきちんと仕事が流れる組織を作りたい……。今年も、また同じようなことを考えている新年です。

新年を迎えて 自然を大切にする優しさと行動を

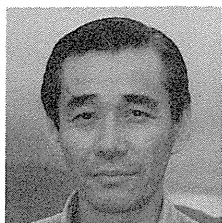
賛助会員・IDC (株) 梅沢 信一

新年あけましておめでとうございます。

昨年も暗いニュースで1年が終ったような感じがしますが、よく考えてみると、それまでの日本が他国に比べ余りにも良過ぎたからではないでしょうか？

昨年は私にとって、決して悪い年ではなかったと思っています。あくまで私の趣味の話ですが、尺オーバーの岩魚、山女魚を10本以上も釣り上げたからです。ここ数年で、めっきり溪流魚の数は減ってしまったのですが、行くべき所に行けばまだまだ残っているようです。天然の岩魚はできる限り持ち帰らないようにし、また、放す場合でも、より上流または支流に放すようにして帰ります。

しかし、最近の環境の変化で鹿、猿、熊が多くなった



ように感じます。これで3回目になりますが、去年も会いたくない熊にお目に掛かりました。熊の数は大きく増えてはいないようですが、人間の食べ残しを狙ったりして里に下りて来ているようです。また、できる限りゴミは持ち帰り、自然を大切に守っていききたいものです。

先日、名古屋シンコーの本社に行ったときに、来年は「地球を大切にする会社である」ことを宣言すると言っていました。業務内容として、椅子張地を作っていますが、その中に塩ビのレザーも販売しています。焼却時に有毒ガスを出さない方法を現在考えていますが、今後、3つのことについて努力していくことを約束して行きます。1つ目はダイオキシンを出さない。2つ目は自然に戻すことができる素材を使う。3つ目はリサイクルした素材を使うということです。

将来、環境問題を行政で規制して行くことは、経済活動との関連の中で時間がかかります。以前は、自分1人位という気持ちがありましたが、今、私たち1人ひとりができることは、子孫や将来の地球のことを考え、自然を大切にする優しさと行動ではないでしょうか？



シンコー(株)本社ショールーム (名古屋)

新年を迎えて
事務所開設10周年とこれから

中部事業支部会員 酒井 哲美

新年明けましておめでとうございます。
います。

協会員の皆様には、よき年をお迎えのことと心より喜び申し上げます。



さて、私事で恐縮ですが、お陰様で今年は事務所を開設して10周年を迎えることができました。いろいろな仕事をしてきましたが、今、振り返ってみますと、今までやってきたことが、良かったのか悪かったのか不安になります。

しかし、自分なりにここまでやってこれたこと、また、施主が喜んでいるのを見るとこれで良かったのだと思います。無我夢中で過ごした10年でしたが、これからも新たな気持ちで、10年、20年とがんばり続けていきたいと思っています。

日本インテリアデザイナー協会の事業等について、私は何一つ参加しておりませんが、事業支部の方々のお陰で、いろいろな情報や資料が手に入り、大変勉強になっております。

今年の抱負として、いろいろなことにチャレンジして、視野を広めていきたいと思っています。

最後に、今後の日本インテリアデザイナー協会の発展と躍進を心よりお祈り申し上げます。

新年を迎えて
Health Care Design
—癒しの医療環境^{つく}創り—
中部事業支部会員 渡部 式部

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

さて私は、自己治癒力を高め、離床率を良くするような Health Care Design — 癒しの医療環境^{つく}創り — の研究をライフワークとして現在取り組んでいます。



昨年、NY州を中心に米国の各医療施設を視察してきました。NYの病院の中には、専属の建築デザイナーが院内にオフィスを設けていたり、あるいは建築デザインと設備の部署が設けられていることに、まず驚かされました。そして、米国の施設には癒しの環境がありました。

ロビー正面のアトリウムには、自然の大樹が美しく繁り、明るい光の中で噴水の周りに憩う人々。待合室は、安らぐ色彩と間接照明を用いた快適で柔らかい空間づくりとなっており、行き届いたインテリアの中で、スタッフの方々の明るい笑顔が、訪問者を心から迎え入れてくれました。また、スペースプランニングやレイアウトにおいても、機能性、美観性に加えてプライバシーの確保、患者の尊厳や癒しへの配慮が反映されていました。さら



THE RONALD McDONALD HOUSE, Long Island (小児医療関連施設) の食堂

に、コンサルティング室のイスひとつ見ても、医師と患者が同等のイスを用いていました。これは、患者に心理的hierarchyを抱かせないよう、不安を少しでも軽減する配慮といつてよいでしょう。

今回の視察によって、癒しの環境について改めていろいろ学ぶことができました。医学は体を癒し、心はその周囲を取り巻く人と環境によって癒されます。

デザインを通して、今年はずいぶん、時代の人々のニーズにふさわしい、癒しの医療環境^{つく}創りを目ざしてゆきたいと思っています。

新年を迎えて 飛驒の匠／家具とクラフトのつながり

賛助会員・日進木工(株) 尾花 しげる

日本のふるさと『飛驒高山』は、木の国であり、匠の里です。洋家具の生産を開始した大正9年から、曲木のトーネットチェアを製作できたのも、この「飛驒の匠」の伝統技術があったからです。また、木はどのようにすれば曲がるのか、といったこともその以前からわかっていたということです。今では、食堂イスの全国唯一の産地として知られるようになりましたが、匠の精神は今でも脈々として受け継がれ、飛驒人はものづくりをするために生まれてきたのでは、と思うほどの感さえあります。

ところで昨年11月の東京国際家具見本市では、旭川と飛驒の合同展が開催されました。両産地の競演ということテーマにして実施いたしましたが、本当に大勢のお客様にご来場頂きまして、この時期としては大成功とっております。

一方、飛驒の展示の中に、飛驒のクラフトマンの作品を家具と一緒に展示いたしました。現在、『飛驒のクラフト協会』には、47人のクラフトマンがおり、今回の展示作品はこのメンバーによるものです。

家具メーカーの集りである(協)飛驒木工連合会と飛驒のクラフト協会は、兄弟のような関係にあり、家具をハードとするならば、クラフトはソフトというように位置づけ、かなりの部分で活躍を共にしております。

飛驒のクラフトマンは、現代の一方の『飛驒の匠』であり、量産の家具と手づくりのクラフトが同居すること

の意味合いと、家具がクラフトから学ばねばならないことを含めて、どちらも欠けてはならない同志になっています。

私自身も、「家具だけでは産地とは言えない」とつくづく思っており、春慶塗、一位一刀彫、渋草焼、小糸焼などの伝統工芸も含めて、飛驒から発信することが大切と考えています。

今年は、4月～6月、飛驒高山美術館において、「マッキントッシュ展」が開催されますし、また、9月には、木工連主催の『木のふれあいフェスティバル』を地元で開催いたします。なお、「飛驒のクラフト展」も同時開催いたしますので、その折にはぜひ、お越し頂きたいと思います。

新年を迎えて サッカーのエネルギーとリズム

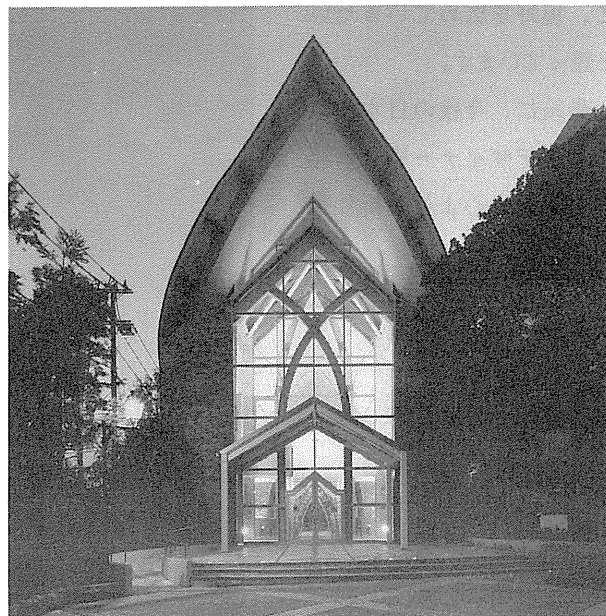
関西事業支部会員 木谷 賢治

平成9年は、余り良い話題が少なかったような気がいたします。今年は、お互いに楽しい話題と仕事をしたいものです。



ところで僭越ではございますが、先日良い知らせを頂きました。「JID 賞」のインテリアスペース部門において部門賞を頂き感謝いたしております。

部門賞を頂いた「長居陸上競技場」は、まず、なみは



近作／La Vieina 姫路チャペル・木谷賢治

や国体のメイン会場として役割を果たしました。また、Jリーグの大阪セレッソのホームグラウンドでもあり、その上、2002年のワールドカップ会場にも決まりました。日本サッカーも、1998年のワールドカップ初出場を決め、嬉しい話題がありました。

私事ではありますが、私自身サッカーをしていたこともあり、ひとしお興味深いものがありました。

平成10年は、JIDの創立40周年記念事業もあり、会員の皆様共々、サッカーのエネルギーとリズムのように、良いフォーメーションを創り、ハットトリック（1人で3得点）を期待しないで、1試合ごとにベストを尽くし、勝利のカップを手にしたものです。そして、できればJIDへの貢献につながれば・・・と願っております。

新年を迎えて 10才若返りの毎年

関西事業支部会員 早川 満利

毎年、年末には10才は若返る。そんな浦島太郎みたいなことが！と驚かれることなかれ、精神的にです。内面的にです。あくまでも……。

年が明ければ、ドイツで大きな展示会出展が待っている。その作品創りのため、徹夜、徹夜の毎日が続く。売ればよいが、売れなければゼロの世界で生きている面白さ。こたえられません！ゴーマンでなければ、やってられません。全世界のクライアントの皆様、もう少しお待ちください。美しいマリエのデザインが出来上がるまで……そんなキザな文句も頭をよぎる。さしずめ私はラ・マンチャの女、槍の变りに筆1本でもって、見果てぬ夢を追求める。

全国の会員の皆様！会員の中には、こんな変りダネもおります。でも、そういうキャパの



広ーい会に、していこうではありませんか。10才若返りたい方は、ぜひご一報ください。

（この原稿は、早川さんが新年を前にして、12月中旬に書かれたものです。）

新年を迎えて デザイン教育、進路・就職指導の現場から

賛助会員・創造社デザイン専門学校 吾妻 健

平成9年1月、実に24年振りに就職協定が廃止となり、「就職自由化時代」の到来と共に幕を開けた昨年度の就職戦線、私共、専門学校におきましても、学生の就職活動は、例年とは異なる動きを予想しておりましたが、2月、3月の早い時期から採用活動を行う各社に対して、学生の自己分析や作品のプレゼンテーション準備が充分とは言えず、応募の段階には至りませんでした。

この時期、学生に対する指導はむしろ、これら就職環境の変化・現況に翻弄されることなく、学生自身の目的意識とデザイン訴求力を高め、現実的な視点からの仕事観を持たせることにありました。

学生自身が本当に「これがしたい！」と思える仕事に、どうすれば出会えるのか、そのために必要な知識や技能を確実に習得して欲しいとの思いから、前期は徹底した準備期間として、デザイン専門教科の履修と並行させながら、各分野の実務セミナーや訴求力を高めるための作



大阪市福島区に建つ本校校舎、及び別館

（ATC 梅田：Apple Computer Authorized Training Center）の全景

品制作指導会を、特別プログラムとして開催いたしました。

協定廃止により、学生の求職活動期間の中や応募出来る機会は、従来に比べて確かに広がったと言える一方で、新卒・既卒の垣根も無くなり、在学期間で獲得すべきスキルも、より即戦力化を目指した実務的な資格取得などで武装する必要性が高くなっています。

さらに、近年、デザイナーに求められる職能領域の拡大に呼応して、従来型の造形・技能的価値を創出する教育を推し進め

る一方、時代性や顧客のニーズをマーケティング・リサーチ、サーベイにより導き出し、新たな提案として、具現化していくことの重要性をも見据えた情報的価値を生み出す教育・人材育成に掛かる期待の高さに対し、これまで以上に、産業界との交流から実務的ニーズを探り、教育カリキュラムへの反映と充実を始めとする社会に開かれたデザイン教育を推し進めてまいります。

新年を迎えて 私が目指すインテリアショップ

九州事業支部会員 宮崎 真理子

今風の言葉で言いますと、インテリアショップの工房を家業とする家庭に生まれ育ち、45年の歳月が流れました。幼き日々には、インテリアデザインを箱庭作りのように、何度となく夢と創造の世界として楽しんだものでした。それが高じて工業高校の工芸科へ進み、さらに東京のデザイン研究所生として学ぶことになったのです。

私のファブリックスを取り扱う仕事の中で、心していることは、インテリアデコレーションもしくはデザインは、ある一定レベル以上の方々のためだけでなく、住空間を持つ全ての人々のためにあるということです。

幼き時より父に連れられ、数多くの個人住宅を訪問、



私のインテリアショップの一角・宮崎真理子

お茶を頂きながら雑談し、その触れ合いの中で、お客様の心の中にあるものを、どうインテリアに表現していくかといった父の仕事振りから、現在の仕事の基本を学んだように思います。話は変わりますが、いまだにとりあげられている住専などの問題なども、マスコミや業界がこの仕事をあまりにも表面的に捉えすぎ、消費者をあおった結果に関係があるのではないかと思います。

今後は現在のインテリアファブリックスの仕事の中に、主婦として母親として経験してきたことを生かして、なお一層喜ばれる仕事を目標とし、地道な人々の生活の中に、潤いと幸福が感じられる生活のお手伝いできればと思っています。

現代の様々な問題が生じている社会には、生活行為の見直しからの観点が必要でしょう。そして、日々の仕事が少しでもその解決につながるようなインテリアショップにしていきたいと思っています。

新年を迎えて ものの価値感

賛助会員・(株)アダル 岩崎 元成

おそらく1998年という年は、私にとって忘れられない年になるだろう。

それというのも学生時代から実に26年の間、何らかの形でインテリアに関わり、私の生活の中で大きな比重を



占めてきたインテリアとの関わり方が、大きく変わったからだ。

家具を売るという営業の立場を長年続けて来た私が、1997年4月を境に、家具を創り表現するという部署にも関わるようになったからだ。立場が変われば見方が変わるもので、家具をデザインし、そして、そのデザインを具現化して行く過程が私にとって、とても楽しい変化であった。

現状を分析し、商品構成を考え、試作を作り、それを完成させ、写真を撮る。そして、それら全てを一冊のカタログに仕上げるという作業を、1年間続け、'98年の今年にやっと完成する。

昨年はものを創り上げるという喜びを久し振りに味わった1年間であった。今年は、このカタログを販売に結び付けるという大仕事が待っている。

世の中、暗い話ばかりが続く中で、ものの価値感には、明るい兆候が見られるように思う。安ければ何でも良いという価格破壊に踊らされた時期の反省が、私たちが扱う家具にも表れている。

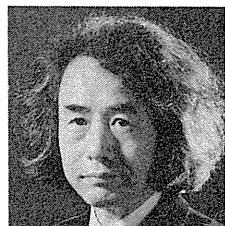
本当に価値あるものは、結局生き残るという当り前のことをいかに追求し実現できるかだと思う。マクドナルドではないけれども、今年のテーマは「バリュー」に決めようと思う。JIDの皆さん、今年のアダルをよろしくお願いいたします。



初めての「JID 賞」大賞「神戸改革派神学校」

1997年「JID 賞」を受賞して

(株)竹中工務店 柏木 浩一



「建築」を生活者の視点で、即ちインテリアから捉まえようと決意して15年が経ちます。インテリア・デザイナーの方々からは、「いまさら何を！」とお叱りを受けそうですが、建築への興味の中心を、社会資産である「外観」から個人資産にもなりかねない「インテリア」に向けるのは、建築家としては辛いことなのです。でも、自分が毎日使うための建築だったらと考えたと、どうしても身近に触れるもの、見えるものが気になります。生活者としての自分を中心に据えて、内から外へと設計を進めていくのが、素直な設計姿勢だと気がついたのです。だから身体の延長線上にあるファニチャー・デザイン、ライティング・デザイン、アート・デザインに、専門家や、ときには建築主にさえも嫌われながらも執拗に関わってきました。

今般、「神戸改革派神学校」で JID 賞の、しかも「大賞」という名誉な賞を頂けたのも、生活者の視点で建築を設計し続けてきたことを、インテリアの専門家が評価して頂けたものと、率直に喜んでおります。

最後に受賞作に少し触れてみたいと思います。この神学校は、改革派の教師養成を重要な目的としており、カルヴィンの流れを汲む「聖書の原点」に遡行するという宗教理念上、安易な形式主義には走れません。「神の真理を追求する教師を養成する場とはどういうものか」との本質に迫る大命題を設定し、苦悩の中から「簡素な中の豊かさ」を「発見」し、答えとしてみたものです。

ありがとうございました。

●審査評

長期の経済の低迷のなかで、デザインのあらゆる分野で苦悩の戦いが続いている。しかしまた一方では、21世紀を透視した新たな規範を模索しつつ、試行錯誤の挑戦もあり、その中に一筋の光明を見ることが出来る。今回の応募作品「神戸改革派神学校」（日本基督改革派教会）はその一つといえよう。

作品は、神学校側の建築基本理念に基づきデザインされた。その概要は次のようである。

深く思索する場の創出、建物は堅固で歴史（100年）に耐え、経年と共に、その美しさの深まりと存在が持続できること、自然と文化との調和によるエコロジー（環境保全）などへの配慮である。

インテリアデザインも施主の生活信条とする「質実剛健でシンプル」をコンセプトに、優れた空間設計、内装、家具、照明器具のシンプルなデザインとプリミティブな素材（木材、コンクリート、鉄板）の選択とがあいまって、簡素のなかにも豊かで美しい空間を構築した力量は高く評価されよう。また、設計者は「不要なものを排除し、単純化することによって本質を際立たせる」ことで高い精神性を包含した内部空間へと昇華させた。

このように優れた作品を生む背景には、依頼主のデザインに対する深い造詣と、知的で思慮ある理解がデザインに携わるものを触発し、より高い次元へ創造をかりたてる動機となると共に、双方の共通認識に立ったコラボレーションの結果といえよう。

今日、華美で饒舌なデザインの余韻が残るなか、明確なメッセージを持ったこの作品は、インテリアデザイン、建築に対して、来るべき新たな時代を展望する上で多くの示唆に富んでいる、このことが「大賞」に値すると評価された。

なお、今回の「大賞」は同賞が設けられた '92年以来、初めての授賞であることを付記しておく。

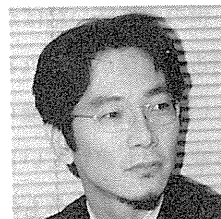
（選考委員長／長岡 貞夫）

1997年「JID 賞」を受賞して

（株）木谷デザイン事務所 松本 浩作

近年、インテリアデザイン業界の中でも、専門的分野の名前を耳にすることが多くなってきた中に合って、今回「インテリアスペース部門」で「部門賞」に選ばれ、この部門において、〈照明〉という1つの材料に関して、ようやく認知される時代になってきたのか・・・と、喜びと共に驚きとして受け取りました。

作品募集の時点では、照明設計という実績がこれまでの輝かしい受賞内容と比べ、少しカテゴリーや性格の違いを感じておりましたが、社会的に少しずつ確立された



空間の構成要素の1つとして注目されたことは、この職性に15年間傾注してきた私にとって大変な喜びであります。社会構造そのものが複合化、細分化してきていることによって、新しい価値観が少しずつ登場してきつつあることを実感させられます。

今回の「長居陸上競技場」の設計に当たっては、光による切り口として空間をとらえ、自然光から人工光までを、光の点景によって空間デザインまで提案するスタンスにおい



「JID 賞」/ インテリアスペース部門「長居陸上競技場 — インテリアの照明計画・デザイン」

て、各要素の決定を願い求めてきました。設計当初より、ワールドカップ対応の会場となるべく照明の設定も、ワールドクラスの良質な光を設定しつつ、日本ならではのイメージも大切に扱ってきました。

照明計画は、それ自身で完結するものではなく、クライアントを中心としたプロジェクトチーム相互の間の理解がないと成立し得ない行為である中で、それへの認知と信頼関係の構築が出来た結果の受賞と改めて感じ、かつ、この紙面をお借りして関係各位へ感謝を申し上げたいと思います。

日本の〈照明〉への理解は、欧米などと比べてようやく初めの一步を踏み出したばかりです。照明デザイナーが、もはや市民権を得ているかに見えますが、実態はまだまだ発展途上段階にあり、照明にかかる教育システムすらまだ完結していないのが現状です。まさに、これから日本の照明デザイナーは本番を迎える時期に来たのではないかと思います。

今後はこの経験を誇りとして、自らの職責を謙虚に自覚し、この独特のスタイルを、より一層1人でも多くのクライアントや設計者に訴えながら、良きパートナーとして、少しでも良質の空間の創造と拡大に努力したいと思います。

この度はありがとうございました。

●審査評

今回の受賞作品、「長居陸上競技場」は1964年に建設されたが、施設の老朽化と'97年に開催される国体、2002年のワールドカップサッカーを念頭に、5万人を収容できる国際レベルの大会が可能な競技場として、1996年に建替えられたものである。

古来、ローマのコロシウムから現代に至るまで、スポーツ競技場は大観衆を収容する巨大な建造物としての歴史であった。

しかし、最近ではその用途も多様化し、スポーツの他コンサートや各種イベントに対応できる機能を備えた多目的空間へと変貌しつつある。

当然、観覧席階下の内部空間も外部とフィールドを結ぶインタースペースであると共に、様々なニーズに対応できる付帯空間として、有機的に機能する重要な空間になりつつある。

受賞作品は上述のような時代背景を正規し、照明計画・デザインによって、従来の競技場の回廊（サーキュ

レーションスペース）が持つ、重く暗いイメージを払拭し、また、インテリアデザインの対象としてマイナーであったこれらの内部空間に、まさにスポットライトを当て、その効果によって、スポーツを中心としたマルチスペースにふさわしい明るく健康的な「集い」空間を、創出したことが評価された。

（選考委員長／長岡 貞夫）

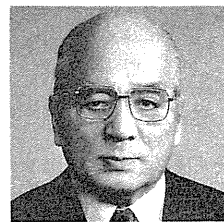
「JID NEWS」創刊200号を迎えて

名誉会員 樋口 治

私は今、この記事を私に依頼された JID の事務局長森谷延周さんに心から感謝している。その理由は、私は常々、会報や記録を整理して保存していないので、こういう原稿を依頼されると過去の資料に困る。そこで私は、森谷さんに、本部にある古い会報やニュースを送って頂くように頼んだ。それを読んでいるうちに、私の心はいつか昔の世界に戻っていた。死んだ会員がまざまざと蘇り、会議や事業の情景が眼の前に現われてくる。そして私は楽しくなっているからである。

昭和33（1958）年11月24日、「日本室内設計家協会」は創立総会を持った。総会の会場は東京・赤坂の虎ノ門共済会館である。その3カ月前の8月24日に、東京から剣持 勇氏が私のところへ来た。大阪も一緒に協会をつくってくれ、ということである。私はその趣旨に同意して、大阪で活動を始めた。日本室内設計家協会大阪支部の創立は、昭和34（1959）年5月27日で、総会の場所は梅田新道の「エーワン・ペーカリー」であった。

その間の昭和34年1月15日に、日本室内設計家協会・会報の「創刊号」が発行された。内容には、銀座8丁目のガスビル6階のアシペで、約56名の会員が集まって懇談会を開催した記事等が載っている。その後、「会報」が「月報」に変わり、さらに昭和42（1967）年8月より「事務局ニュース」となり、昭和44（1969）年7月25日に協会は法人化して「社団法人／日本インテリアデザイナー協会」となり、今日のような「JID NEWS」のタ

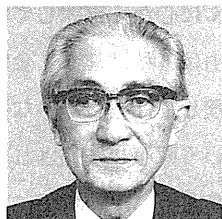


イトルの下での発行は、昭和54（1979）年8月号（通巻94号）からであり、これが現在に至っている（通巻200号）ものである。思えば40年の長い間、この会報が私たちを勢い付け、団結を守り、そして今日、私に楽しい思い出まで与えてくれているのである。会員諸兄弟に願います。会報は大事にしてほしい。この「JID NEWS」が300号、400号になったとき、そして、会員諸兄弟が年老いてそれを見ると、諸兄弟は必ず私と同じ心境になるからである。

「JID NEWS」創刊200号を迎えて

名誉会員 村尾 平格

この原稿の依頼を受けたので、その経過を思い出すために事務局に赴いて、短時間ながら保存されている資料の一部を斜め読みしてみました。



約40年弱の年月は、さすがに長いもので、その間の社会の変化、戦中・戦後を通じて10数年間のデザイン界のブランクを取り戻すために、先進国に追いつけ追い越せの意欲が多方面に感じられ、引続いて日本の復興から経済発展の波に乗り、「インテリアデザイン」も社会から数多く要求され、望まれて発展し、国際化も他のジャンルと同様に展開して現況に至ったことが痛感されました。

その間、各種の賞を受賞された多くの方々のご研鑽に敬意を表すと共に、親しかった多くの人々の他界とその在りし日の追想等が脳裏をかすめて、短時間の資料通読であったが、複雑で深い感動を受けた次第でした。

以上は追想で、後ろ向きの姿勢ですが、転じて前向きになると、丁度今は、京都で「温暖化防止世界会議」の締め括りの時期で、数多くの難題と国際関連の報道論評が飛び交っている真最中です。これは地球上の資源に始まり、世界の工業化や経済発展等、過去半世紀の間の、主として先進国の発展と共に生み出した膨大な負の大穴をどう埋め戻すかの世界中の難題でしょう。

これは衣食住の人間の生活の根本にまで関わることで、デザイナーとしても他山の石ではなく、少なくとも人間

の文化に関連する職能人として、世界中の人間が少しでも地球環境を大事にして豊かさを増すように、しかも、その豊かさとはどういうことなのかを、世界を舞台にした視野で、少しでも解決する糸口を見つけなければならぬでしょう。

環境、生活、交通、廃棄物等を見廻しても、本当の豊かさを考えるための反省材料は事欠かない筈です。多くの人々と共に、デザイナーもこれに取り組んでこそ、地球が蘇えるのではなかろうかと、若手デザイナーに、若さとは新たな始まりのことだから、大きく期待し、前向きな夢として、「200号」を祝福する次第です。

（社）国際家具産業振興会 創立40周年記念特別ビジネスセミナーを終えて

IFFT '97 セミナー企画委員 中山 智恵美

1979年より開催されて13年目を数え、毎年恒例の「東京国際家具見本市」が、去る11月26日（水）～29日（土）、東京国際展示場「東京ビックサイト」で行われました。そして今年1997年は、主催者である（社）国際家具産業振興会が創立40周年を迎え、記念特別ビジネスセミナーを開催することとなり、その企画をJID 本部・事業委員会を窓口とし、秋山修治委員長と私とで担当させて頂きました。

入会して数年、JID NEWS に目を通すだけでいました私のような会員にとりましては、企画のみならず司会進行の任務は、思いがけずの大任でした。幾度かの打ち合わせを重ね、期待と責任感で当日を迎えました。

11月27日、午前の部『21世紀の家具産業を展望する』／喜多俊之会員のセミナーでは、スライドを交え「家具産業は住環境に伴う問題であり、現代の狭い住宅事情を指摘され、過去における高い生活文化の歴史・優秀なものとの原点を再発見し、未来に活かしていく姿勢が新しい製品開発に必要となることや日本の伝統工芸を見直すべきである」といったことを述べられ、改めて再認識させられました。

続いて午後の部『家具産業と家具デザイン』／喜多俊之・岩倉榮利両会員と長原 実・関 道朗両氏（JID 賛助会員）4者のパネルディスカッションでは、それぞれ拘束のない自由な発想で討論して頂くこととなり、私の

緊張や心配をよそに、今回の見本市の中核となった『旭川と飛騨高山』の家具産地の方向性も交え、国際的視野で巧みに興味深く話されました。また、「旭川の国際家具コンペティションの海外からの評価の高さや飛騨高山の伝統工芸に根付いた家具デザインの文化度の高さは、家具産業の明るい未来を予想出来るのではないか」とのことでした。

改めて振り返ってみると、経済不況や社会不安の時代の中、活気とポジティブな思考を持って乗り越えて行こうとする姿勢

が、今回の国際家具見本市であったように思われます。

今回の受託事業を通じて、日頃接触の少ない JID の活動内容を知ることが出来た上、まだまだ若輩な私にとっては、貴重な経験をさせて頂き、良い勉強となりました。そして、大変熱心に今回の企画を推進してくれた秋山委員長並びに、ご協力頂きました木村事業委員長・森谷事務局長に感謝すると共に、「JID 創立40周年記念事業」に向けて、これまでの蓄積をもとに、さらに発展していくことを期待しております。

創立40周年記念事業 メインテーマを「つなぐ」に決定

40周年実行委員会副委員長 中川 帛子

JID NEWS 1997/8・9月号で泉理事長がその意義と構想を発表した記念事業の推進に先立ち、理事を中心に4回に亘る「40周年記念事業準備委員会」が開催され、事業推進の骨子及び実行委員会組織について検討してまいりました。

そして去る11月5日、この準備委員会を発展解消し「40周年記念事業実行委員会」と名称を改め、これまでに2回の委員会が開催されています。

この間、正会員に対して、書面により実行委員会への



盛況だった特別ビジネスセミナー／家具産業と家具デザイン

参加を広く呼びかけましたが、現在までに11名の方が、参加への回答を寄せてくれました。実行委員会では今後共、会員の皆様の積極的な参加を希望しております。

実行委員会は、現行のJID 本部・各委員会を軸に、下記のような事業を担当することを前提に組織されています。

下記はこれまでに準備委員会及び実行委員会において検討された概要ですが、前記のJID NEWS 巻頭の泉理事長の記事と合わせてご一読ください。

- **メインテーマ**：準備委員会において、メインテーマを検討、第2回実行委員会において、24のテーマ案の中から満場一致で「つなぐ」を選出しました。
- **事業**：40周年記念事業は、原則として独立採算可能な企画であることを前提に、現在下記の6事業が検討されています。また、事業を担当する委員会や担当理事及び各委員長の互選なども行われました。
- 下記は現段階における各委員会ごとの事業概要です。また、名称はいずれも仮称です。

1) 式典・祝賀会

- 開催時期を創立記念日11月23日近辺とする。
- 式典以外に表彰や記念講演等の検討も行う。
- 担当：式典祝賀会委員会
委員長：秋山修治
担当理事：栢原秀榮／中川帛子

2) 講演／シンポジウム

- ただちに内容の検討、計画案の作成に着手する。

- 担当：講演／シンポジウム委員会

委員長：山本其観代

担当理事：中川千早／浅野盛治

3) 展覧会「日本の近代デザイン展」

- 企画運営を JID が担当し、主催は美術館等。
OZONE、宇都宮美術館などと交渉中。
- 2月頃までに開催の可能性が決定する予定。
- 日本のモダニズム50年／建築、工芸、ID、生活を背景に「椅子100選」が交差する。
- 担当：日本の近代デザイン展覧会委員会

委員長：鈴木恵三

担当理事：岩倉榮利

4) 展覧会「JID」

- テーマ、形式、規模等の企画検討を開始する。
- IFFT '98 等、協会外のイベントとの提携等も検討する。
- 担当：JID 展覧会委員会

委員長：未定

担当理事：今崎 務

5) 出版「会員ワーク集」

- 現行事業委員会企画の「会員ワーク集」を40周年記念事業とする。
- 企画 JID（編集長／森本 勉会員）：出版／住宅新報社／2000部発行
- 担当：会員ワーク集出版委員会

委員長：木村戦太郎

担当理事：福田友美

- 以上の委員会以外に、これらの事業推進を支援する広報委員会（竹岡美智子委員長：担当理事山口道夫、吉良ヒロノブ）及び財務委員会（田中聡行委員長、担当理事泉 修二）が設けられている。

- ・広報委員会は、シンボルマークの作成、及びプレスリリースの準備に着手する。

また、有力広報先の情報提供を会員にも求める。

- ・財務委員会は、過去の創立記念事業予算を参考に、財源確保の準備を始める。このための「趣意書」を早急に準備する。

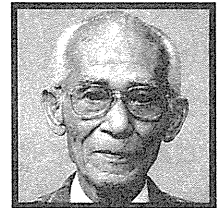
各委員会は計画に沿った事業予算を早急に試算し、次回委員会に提出する予定です。なお、実行委員会は原則として毎月1回開催、事業推進の調整連絡及び情報交換のため、代表委員による連絡会議を開きます。

実行委員会では、創立記念事業の実践が協会活動の活性化と有効な会員間の情報交換の場となるよう、重ねて会員各位のご協力と積極的なご参加を願っております。

村田清包さんを偲ぶ

関東事業支部会員 西沢 圭三

『村田さん如何ですか、ご無沙汰してます』とか言いながら村田清包さんの顔を見ると、あの独特な笑顔と特長のある声とアクセントが返ってくる。



大正9年11月3日生まれで、平成9年11月10日没と共に菊薫る11月、77才であった。生者必滅全者定離というが77才で他界では村田さんも残念だったろうが、私たちが淋しさと無念さがつのる。文頭にも書いたが、その風貌と声は、一度会えば忘れ難い人情味と鋭さを持ったものであった。

ビジネスとしてのお付き合いは無かったが、同和本材、岩田屋産業、ハヤミズ等で企画設計監理関係の仕事をされ、村田インテリア設計事務所としては、NHK ほか商業施設を中心として50年近くも活躍された。そして昭和48年に JID 会員になられ今日に至るのである。

どうも『……であった』という過去表現の文字は大変に淋しいものだが、永い間の仕事に対して、本当にご苦労様でしたと申し上げたい。仕事ばかりではない、村田さんのご自身の肉体が病に犯されていたのだが、誰に会ってもその辛さを表さず、常に静かで本当にカッコ良かったのだ。心の中では激しい葛藤があったのだろう。そのような中でも、「JID は会員1人ひとりのためにある、どうして皆が心を割って話し合える会にならないのか」と心配をしていた。

創刊200号記念の「JID NEWS」のためにも記しておきたい。

ともあれ、77年間の人生は、戦前・戦中・戦後そして急変する現代という荒波にもまれながらも、目標に向い、愛し、苦悩し、笑い涙しつゝ泳ぎ渡ったのであろう。村田さんを偲ぶには筆力に限界があり、心苦しくも残念だが、こゝに心から“安らぎ”を祈って止まない。 合掌

平成9年度・第4回理事会報告

①会議名：平成9年度・第4回理事会

②日 時：平成9年11月12日(水) 13:30～16:50

③場 所：(株)日本インテリアデザイナー協会

本部・事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席11名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川帛子、山口道夫

(理 事) 今崎 務、岩倉榮利、栢原秀榮、
吉良ヒロノブ、中川千年、長岡貞夫、
福田友美、森谷延周(事務局長)

(委任状) 浅野盛治、関 里繪子、中川千早
夏原晃子

(監 事) 金子誠之助、川上信二

⑤議 題

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2) 平成9年度収支状況報告(9月末日現在)
- (3) 平成9年度中間決算監査報告
- (4) 役員及び選考委員選挙結果報告
- (5) 平成9年度デザイン功労者表彰報告
- (6) 会員の著作権侵害に対する調査報告
- (7) 新名誉会員の推挙について
- (8) 受託事業契約締結(1件)
- (9) 平成9年度公益法人概況調査提出報告
- (10) 管理費を中心とした改善策について
- (11) その他

⑥ 議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席11名、委任状4名で本理事会は成立した」旨報告。泉理事長を議長に議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記8件について説明した。

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「JCDデザインシンポジウム『SECTION 17』
『SECTION 18』 後援・新

1997年11月7日(金)、11月11日(火)

主催 (株)日本商環境設計家協会

◎「イタリアン インテルニ展」 後援・新

1997年10月2日(木)～19日(日)

主催 アジア太平洋トレードセンター(株)

◎「第45回東京インターナショナル・ギフト・ショー春'98」

協賛・継

1998年2月4日(水)～6日(金)

主催 (株)ビジネスギフト社

◎「第19回大阪インターナショナル・ギフト・ショー春'98」

協賛・継

1998年2月18日(水)～20日(金)

主催 (株)ビジネスギフト社

◎「'98 JAPAN SHOP(第27回店舗総合見本市)」

協賛・継

1998年3月3日(火)～6日(金)

主催 日本経済新聞社、(株)店舗システム協会

◎「神奈川デザインフォーラム1998」 協賛・新

1998年2月4日(水)～8日(日)

主催 (株)かながわデザイン機構

◎「インテリアプランニング賞'98」 協賛・継

1998年1月～9月末

主催 (財)建築技術教育普及センター

◎「'98 クラフトマンズヨコハマ展『海・音・光』」

後援・継

1998年4月1日(水)～5日(日)

主催 クラフトマンズヨコハマ

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記2件について説明した。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

入会 正会員(1件)

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
山 本 紗代子	関西	千田 要宗・夏原 晃子

退会 正会員（1件）

氏 名	支部
嶋 本 喜 司	関東

第3号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、福田友美、森谷延周両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については(3)を川上監事、(6)(10)を泉理事長、それ以外を事務局長が、資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（吉良）

去る9月19日、第4回「デザイン職人四方山話」を開催した。（京橋・INAX アーキプラザ／参加者30名）、引き続き来る11月13日に、第5回目（松本哲夫会員）開催予定。「IFI '97 アイルランド大会と北欧ユニバーサルデザイン研修ツアー」（9月21日～30日／参加者22名）が無事終了したこと及び、11月25日に関東事業支部代議員会開催予定と報告。

●中部事業支部（関）

関担当理事委任出席のため、事業報告書（別紙）配布により内容を確認した。

●関西事業支部（夏原）

夏原担当理事委任出席のため、栢原理事が代理報告。去る10月4日、デザイナーレ '97（主催／デザイナーレ '97大阪コミティ）が開催され、記念講演会、デザインフォーラム（大阪・南港 WTC 会議室）船上パーティー（サンタマリア号）がそれぞれ行われたこと（JID 参加者25名）及び、来る11月14日開催予定の「第2回フォーラム・JIDを考える」に多くの参加を望みたいと要望した。

●九州事業支部（中川千年）

去る11月1日～3日、「FUKUOKA デザインリーグ '97 デザインマーケット／家具と語ろう！」（福岡市役所西側広場）に、会員8名が参画したこと及び、11月7日の第3回「例会」テーマ・デザインとクラフトマンシップの融合の開催に

ついて報告。なお、デザインリーグ '97 実行委員会は、デザイン関係団体を中心に18団体で構成されている。

●選考委員会（長岡）

これまでの審査経過と共に、去る10月31日、1997年「JID 賞」の第2次審査（最終）を行い、初の大賞及びインテリアスペース部門賞1点を決定した旨報告。なお、表彰式は明年1月下旬の '98 NEW YEARS PARTY の折に行う予定。

●総務委員会（栢原）

'98 NEW YEARS PARTY の開催について、来る11月20日、関東・組織委、交流委及び選考委を含めた合同委員会を行うこと及び「ジャパンデザイン」JID ホームページに新入会員募集を加えた旨報告した。なお、PARTY に関しては、吉良理事より関東事業支部の対応を補足した。

●組織委員会（中川帛子）

メリットを探ることを主眼とした「組織委員会の仕事」を列記し、今後の整理に備えることにしたこと及び、全国のデザイン事業所による事業協同組合・設立準備会の動きについて、中間報告を行った。なお、同・拡大準備会のため、長堀映司委員長のほかに、11月5日より坂本和正、藤村盛造会員を追加した旨報告した。

●国際委員会（浅野）

浅野担当理事委任出席のため、中川帛子理事が代理報告。

第18回 IFI 総会(9月23日～24日ダブリン市)における、地域代表制に関しては、アジアから台湾・韓国が選出された。また、IFI 新雑誌「FRAME」が11月末に発刊されることになった。一方、国際会議（9月26日～28日キラニー市）はテーマ：A Sence of Place により開催、参加者200余名、JID からは10名が参加した。次期総会では1999年シドニー（オーストラリア）、国際会議の方は3団体（ICSID, ICOGRADA, IFI）合同会議となる。

なお、APSDA '98 クアラルンプールの開催予定は、1998年9月28日～10月3日である。

●交流委員会（岩倉）

山陰夢みなと博・シンポジウム「マルチメディア

とデザイン」講演記録作成に協力、10月25日に完成したこと及び近々全国会議の開催を予定している旨報告した。

●広報委員会（山口）

広報委員会の本来の役割について継続的に検討している。この件につき、複数の理事より外部に向けた JID の PR、媒体へのチャンネルづくりの必要性について指摘があった。改めて基本的運営を次年度に向けて検討することとした。また、創立40周年広報については、11月18日に検討を予定している。

●事業委員会（福田）

(注)国際家具産業振興会創立40周年特別ビジネスセミナー、JAPANTEX '98 テーマ展示の両受諾事業の進捗状況について、順調に進行していること及び、仮称・会員ワーク集「JID 1998」については、住宅新報社と発行先、発売元、DM、スケジュールなど継続的に検討を重ねている旨報告した。

●教育・研究委員会（中川千早）

中川千早担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

「活路開拓ビジョン調査事業」の内、「調査研究事業」の一環として、JID 会員対象に製品の素材に関するアンケート調査を実施中であること、その集計分析を経て、第2段階の「ビジョン作成事業」に着手、明年2月までに、報告書が作成される旨報告した。なお、複数の理事より、事業の性格や実際から、事業担当を本部・教育委から切り離し、このための特別委員会設ける方がよいとの指摘があった。

●デザイン保護委員会（今崎）

去る10月、デザイン8団体と共に、意匠法改正委員会の資料確認作業を中心とした会議を重ねた。内容的には、例えば早期審査制度、審査の迅速化、類似意匠制度の見直し他である。なお、来る11月18日に最終答申案検討のための研究会を予定している。

(2) 平成9年度収支状況報告（9月末日現在）

4月1日～9月30日現在の収支状況を資料に基づいて報告。全予算に対して収入29.0%、支出35.8%で6.8%

の支出オーバーとなっている。

(3) 平成9年度中間決算監査報告

去る10月24日実施した監査結果について、金子、川上両監事を代表して川上監事より、帳簿並びに関係書類の正確性を検討した結果、相互に記載と符合し、正しく示している旨報告。

(4) 役員及び選考委員選挙結果報告

平成10～11年度役員選挙結果（開票10月14日、平均投票率51.4%、関東53%、中部48%、関西45%、九州57%）及び選考委員選挙結果（開票10月21日、平均投票率50.8%）をそれぞれ資料に基づいて報告。

(5) 平成9年度デザイン功労者表彰報告

先に推薦した白石勝彦会員が、平成9年度デザイン功労者の被表彰者に決定した旨、資料に基づいて報告。去る10月1日（デザインの日）、東京・イイノホールにて表彰式が行われた。

(6) 会員の著作権侵害に対する調査報告

JID の某賛助会員と某正会員間に発生した著作権侵害問題について、去る6月6日開催の理事会（平成9年度第1回）以降に託した中村名誉会員から調査報告書が届き、泉理事長が同報告書に基づいて説明した。それによると、相互協議の場を設け、話し合い解決を試みたが、会うこと自体に難儀さがあり、解決に至っていないと報告。理事長はデザイン保護委員会今崎担当理事を通して、同委員会に継続的検討を依頼した。

(7) 新名誉会員の推挙について

資料に基づいて金子誠之助、松浦 弾、渡辺敏雄、藤本経子、高薮 昭の5会員が、平成10年度からの該当者であると報告。のちに諾否の打診を行う予定。

(8) 受託事業契約締結（1件）

JAPANTEX '98 特別催事「テキスタイルとひかり」の展示企画・デザイン業務の契約締結について報告。

委託者／(注)日本インテリアファブリックス協会（11月4日付）

(9) 平成9年度公益法人概況調査提出報告

通産省より提出依頼のあった平成9年度公益法人個別調査票を、去る10月9日に提出した旨、資料に基づいて報告した。

(10) 管理費を中心とした改善策について

理事長より管理費を中心とした改善策進捗状況とし

て、人件費を除く家賃、会計業務委託、清掃委託、IFI 理事派遣など136万円の削減案、JID NEWS 編集、加入団体費、会員拡充、簡易印刷機の導入などによる増減案などについて口答説明があり、今後共、継続的に検討を重ねていきたい旨報告。

(11) その他

- 訃報 剣持 仁（名誉会員）

平成9年10月10日逝去 享年82才

村田清包（名誉会員）

平成9年11月9日逝去 享年77才

立川孟美（賛助会員）

平成9年9月18日逝去 享年82才

立川ブラインド工業㈱代表取締役会長

- 通産省業務監査（予定）平成10年2月10日（火）

- 年末年始の休業

平成9年12月27日（土）～平成10年1月4日（日）

- JID NEWS 12・1月号 1月26日（月）発行予定

- 次回理事会開催予定（'97 第5回）

平成10年1月20日（火）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

シンポジウム「健康な住まいと素材」 開催のお知らせ

本部・教育研究委員会委員長 村口 峯子

教育研究委員会は、平成8年度から「素材と健康」をテーマとし、広い角度から取り上げてきました。始めは手探りの情報集めでしたが、最近では素材メーカーやメディアの方々の関心も非常に高まり、情報も多くなりました。

しかし、実務に際して私たちはどのように対処したらよいのか、迷うことが多いのが現実です。今回、そのような状況を背景に、本部・交流委員会と共に「健康な住まいと素材」というタイトルでシンポジウムを開催いたします。

講師の天野 彰氏（建築家。家ッグ主宰、健康住

宅に関する講演、著書多数）を中心に、医師やインテリアデザイナーの方々に参加して頂き、自由に話し合ってください。

日 時：1998年2月25日（水）午後6時より

（後半、懇親会を計画）

場 所：ヤマギワ五番町ビル地下（東京）

（上階は家具のショールーム）

参加費：1人¥2,500円（懇親会飲物代含む）

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加をお願いいたします。また、お知り合いや学生の方々にも、お声をお掛けください。詳しいことは改めてご案内いたします。

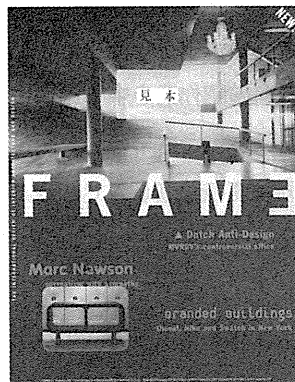
去る10月24日、大阪にて教育研究・本部・支部合同委員会が行われました。関西事業支部の安藤会員のご尽力により、夏原理事、小宮支部長はじめ多数のご出席を頂きました。紙面を借りてご報告いたします。

IFI／インテリアデザイン誌 「FRAME」届く

前号 JID NEWS（1997年10・11月号）でお伝えしました「FRAME」創刊号が届きました。

（A4変形版・約100頁・カラー）

すでに「見本誌」を各支部事務局に送付済みです。実物をご覧になりたい方や講読申し込みをご希望の方は、各支部事務局にお問い合わせください。「注文書」も各支部事務局にあります。（本部・事務局）



[会 員 の 異 動]

● ご面倒でも、1997～1998版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

● 正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
川 田 明 美 (関東)	事務所移転	東京都中央区日本橋小舟町9-2 ソレイユビル4F 〒103-0024 TEL 03-5641-0070 FAX 03-5643-2650
石 井 静 香 (関東 P49)	事務所移転	東京都新宿区西新宿6-23-1 西新宿パークサイド7-504 〒160-0023 TEL・FAX 03-3346-1210
杉 本 弥和子 (関東 P85)	事務所移転	埼玉県川口市川口4-11-2 川口ハイツ602 〒332-0015 TEL 048-251-9503 FAX 048-251-9513
高 橋 三太郎 (関東 P91)	事務所・自宅移転	北海道札幌市西区小別沢50-1 〒063-0011 TEL 011-667-1941 FAX 011-667-1942
竹 園 康 志 (関東 P93)	事務所・自宅移転 支部移動→中部	岐阜県高山市大新町3-170 〒506-0851
鳥 場 淑 高 (関東 P99)	事務所・FAX	FAX 03-3727-6716
藤 村 盛 造 (関東 P114)	事務所移転	東京都新宿区北新宿1-28-15 中田ビル2F 〒169-0074 TEL 03-3362-0047 FAX 03-3360-6575
真 下 優 子 (関東 P117)	自宅移転	北海道札幌市中央区北4条西16丁目1-56 〒160-0000 パークウス北4条1302 TEL 011-614-3737
緒 方 克 子 (中部 P139)	事務所・自宅移転	愛知県名古屋市千種区月ヶ丘2-2-17 〒464-0043 TEL 052-719-3633 FAX 052-719-3648
福 森 文 雄 (関西 P171)	事務所・自宅移転	大阪府豊中市庄内東町1-5-14-302 〒561-0831
小 野 和 徳 (九州 P184)	事務所・住所表示	大分県大分市下郡中央3-9-37 スカイハイツ下郡107 〒870-0954

● 賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
(株)コスガ研究開発部 (賛助 P199)	移転	東京都中央区日本橋横山町9-9 第1コスガビル 〒100-0003 TEL 03-5645-2265 FAX 03-5645-2267
(株)日建スペースデザイン (賛助 P207)	移転	東京都千代田区麴町5-4-19 セタニビル 〒102-0083 TEL 03-3264-6609 FAX 03-3264-6697

自然環境保護と仕事

関東事業支部会員 小田原 健

人類は大自然の恩恵を受けているから、豊かな暮らしが出来ている。そして、私も木材資源により、家具やインテリアの仕事をさせて貰っている。

5年前、九州の大分県日田地方に、巨大な台風により、杉の植林地に想像を絶する大被害があった。杉の木が、山から根元ごとダムに流れ込み、一夜にしてダムを300万の木で埋め尽くした。建設省は、杉の木をダムから引き上げ広場に積み上げた。それが有名な平成3年の「風倒木」である。

気の遠くなる量だった。あるご縁で、この傷だらけの木材を使えないかと相談があり、早速、現地に向かい丸太を確認した。どこの製材所でも、小石がのめり込んだ丸太の製材を嫌った。

日田市にある栗山機械の社長さんの紹介で、中津江村の工房 — 蜂之巣の川野幹夫さんを紹介された。木材の大切さに共通した考えを持った人である。

早速、風倒木を甦らせる仕事に取り組み、傷や割れを取り除き、短材でも使うことにして、工房 — 蜂之巣の工場の協力で1棟のログハウスとその家具を試作してみた。そして、林野庁や全材協などの協力を得て、多くの人々に木の大切さを知ってもらおうと、お願いに行ったところ、「余計なお世話をするな」と断られてしまった。私には、分からない「訳」があったようだ。役人や天下りの心を少し感じた。

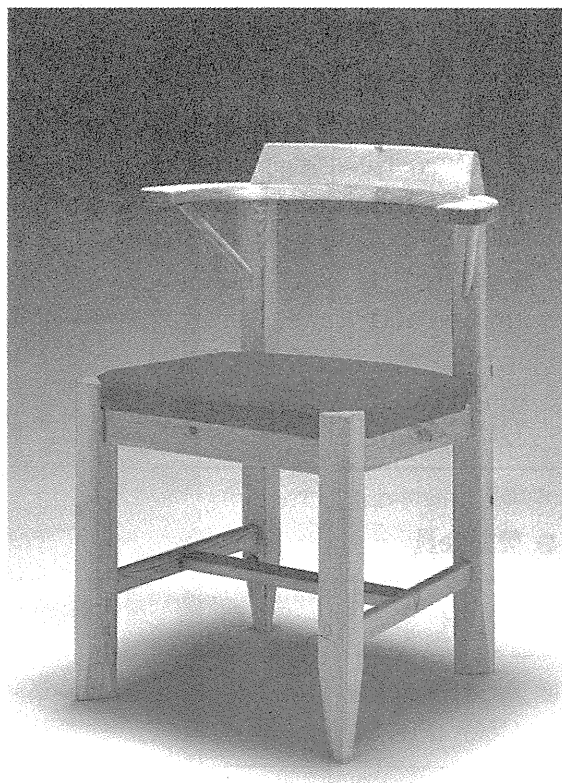
しかし、なんとか発表したいと思い、マスコミのTV、新聞などを集めて会見を行った。東京・青山で発表することになり、マスコミの力によって、大反響となり、7,000人の人々が詰めかけた。しかも、初日の朝は、畑農林大臣が飛んできた。そして、「今後の協力は私にお任せください。」と言ってくれ、翌朝は、林野庁長官がスタッ

フを連れ、気まずい顔をして飛んできた。

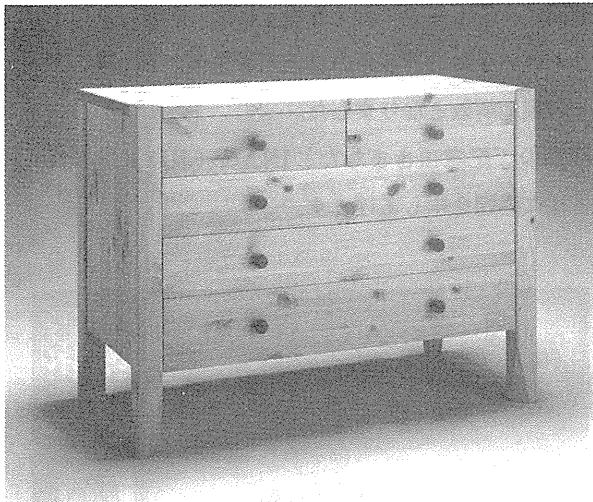
小節の多い「日田杉」は、建築家もインテリアデザイナーも目もくれない粗材だと思う。だが、50年間も大自然の恩恵を受けて育った大切な木材であり、植林した人、山を手入れする人々の気持ちも大切にしたい。

輸入材との値段の比較はどうかと言っているハウスメーカーの声も聞こえたが、近年、地球環境保護とか有害物質のことが問題視されているが、地球に保護されているのは人間の方であり、少し考え直した方がよいと思う。

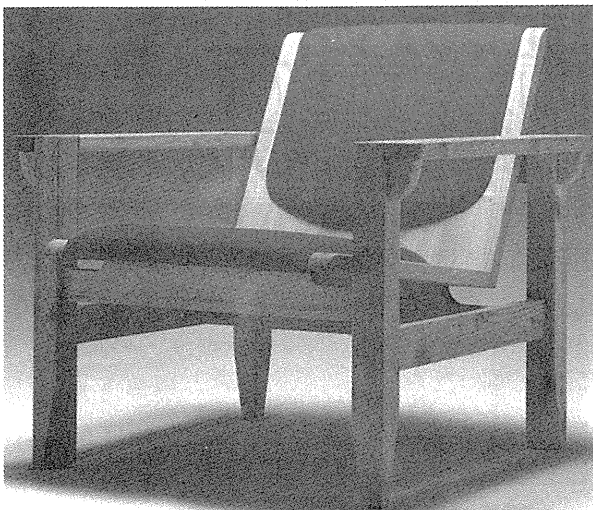
その後、上津江、中津江村は、杉材の有効利用により大発展を成し遂げている。私もその後、自然林の木材は出来るだけ使わず、世界の植林材の有効利用を心がけ、今年は北スウェーデンのパインの植林材を使い、デンマークの職人たちと新しい家具をつくり、発表をしました。このことは、雑誌 — コンフォルト、室内、通版生活・秋の特大号などにも紹介され大反響を受けています。日田杉の話を知った埼玉県や愛知県の方からも、杉材の具体的有効利用の相談を受け、今後はその事業化に努力したいと思っていますところですよ。



ダイニングチェア（スウェーデン・パイン材）
環境と健康を守るオイルと接着剤を使用



チェスト（パイン材）



アームチェア（パイン材）



近作・小平市民文化会館ホワイエのタペストリー、素材／金網と糸（3m×9m）

私の仕事

関東事業支部会員 砂畠 睦子

平成9年12月2日から11日、銀座の建築家倶楽部において、「糸のメッセージ砂畠睦子個展とフォーラム」を開催したことは、私にとって貴重な体験となりました。いつもの個展と少し違ったのは、建築空間作品は写真で、あと半分が作品という内容で、フォーラムのためのスライドやビデオ準備に追われました。

そのフォーラムで、近江 栄先生の司会によって2時間の話をしたのですが、タペストリー作家として歩んできた自分を振り返ることになりました。私の原点は布、刺すというニードルワークの分野ですが、未知の素材との出会いをきっかけに発見した、様々な技法を組み合わせで発展させてきました。

かつて、高島屋・日本橋店インテリアギャラリーで個展を開催したとき、ある建築家との出会いがあり、建築空間の仕事が始まりました。その公共建築の作品も6m、9m、12mと次第に大きくなり、変わったところでは11mのコンクリートレリーフも手がけたりしました。

作風は、レタテル風に一定のことをやるより、私はもっと自由でいたいと思います。既成観念に縛られず、

素材との新たな出会いや発想を大切にしていきたいと考えています。素材は糸、布、金網、アクリルその他ですが、空間や場所によって更に素材は変わるし、当然、表現も変わっていくと思っています。

展覧会は、いつも自分を見つめなおす機会であり、思いがけない人との再会があり、出会いがあり、私の方向を示唆してくれましたし、また、広がっていく貴重な節目になっているのです。

世界のタイル博物館見学会より INAX TILE MUSEUM

中部事業支部副支部長 松波一夫

去る11月15日、中部事業支部では、秋の事業活動の一環として、「世界のタイル博物館」見学会を実施しました。当日は、小宮容一・関西事業支部長の特別参加及び中部事業支部・事務局の水野さんも含め、総勢19名の参加となり、晩秋の1日、大変有意義な見学会となりました。

世界のタイル博物館は、タイル研究家、山本正之氏の収集された世界各地のタイル約6,000点を、常滑市に寄贈、INAXがその保存、管理、分類を常滑市から委託され、現在まで研究をすすめてきた成果を広く公開するために開館された、日本で初めての研究博物館です。

私たちは、INAXの方々の出迎えを受け、まず講義室にて、レクチャー及びビデオで博物館の説明を受け、館内の見学となり、タイルの歴史、製法、技術、世界のタイルコレクションなどを、大変興味深く見る事ができました。

最後に、ミュージアム・カフェにて、各自好みのドリンクとケーキにて、休息のひとつきを過ごした後、三々五々の現地解散となりました。

格別のご配慮頂きました、INAX（JID賛助会員）の皆様へ感謝を申し上げます。



世界の美しいタイルの印刷された案内ハガキ



世界のタイル・見学会を有意義に終えて、車中の
(左列から) 渡部(式)、渡部(ま)会員、関 中部担当理事、木辺会員



同じく、車中の(左列から) 松波副支部長、中村、池田会員

お客様にやさしい和菓子店

交流部会委員 廣瀬 一

松平藩の城下町であった桑名は、名古屋地方同様に抹茶が盛んで、人口の割には和菓子店が多く、京都や名古屋のお茶の家元へ和菓子を納めている有名な和菓子店もあるくらいです。

去る9月にオープンした「福寿堂」というお店、好立地なのに店の印象が悪く、売上げも落込み気味だったのですが、この度の改装、増床工事で売上げも5割増え、店主には大変喜んで頂きました。

最近、支部で行なってきた「人にやさしい住環境」の勉強会の成果で、この店には食品店ということで、材料についていろいろ考え、杉板の外装材には、今までならば「キンラデコール」等を塗っていたのですが、今回は植物油系のオスモカラーを塗装しました。内装の壁紙は和紙の壁紙で、ノンホルマリンタイプの糊を使っています。



和菓子店「福寿堂」の外観、杉板の外装材に植物油系のオスモカラーを塗装した。



今までの印象を一新し、売上げ5割増で店主も大喜びの和菓子店「福寿堂」の入口

キンモクセイでまちづくり

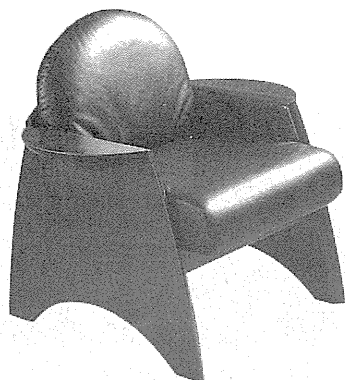
交流部会委員 山下昌男

私は飛驒の神岡に住んでいます。この地は古くより鉾山で栄えてきた町です。しかし、かつての隆盛は今はありません。

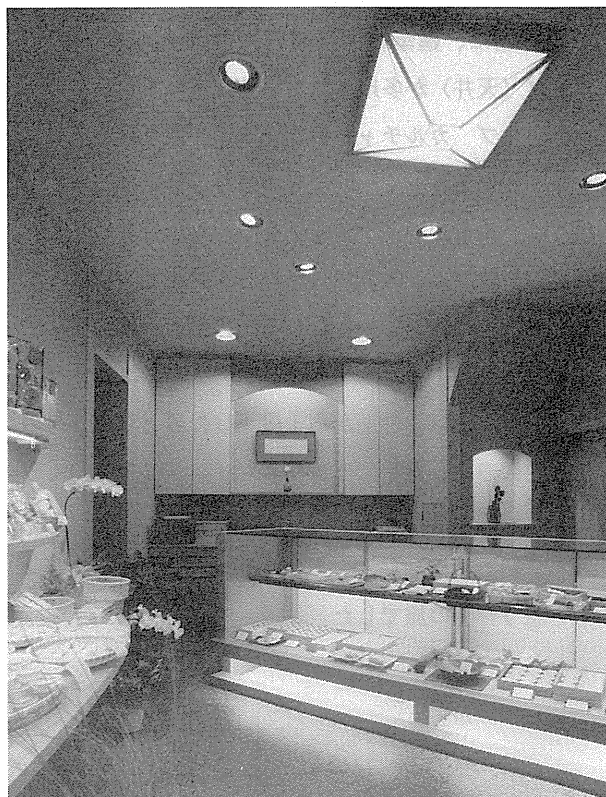
そんな中、香りの「まちづくり」と称して4年前よりキンモクセイを国道沿いや町内に植樹し、来年には約3,000本近いキンモクセイの里となります。きっと9月下旬には、鉾山に眠る金が香木として姿を変え、秋の風

に乗って心地よい香りを楽しませてくれる筈です。

そんな飛驒・神岡へ一度遊びに来てはいかがですか。心よりお待ちしております。



自社製品のいす



店内の内装材の和紙には、ノンホルマリンタイプの糊を使用した。

アルバー・アアルトのデザイン手法

関西事業支部長 小宮 容一

9月末のIFIアイルランド大会出席の機会に、フィンランドを廻ってA・アアルトの建築・インテリア作品を見ました。訪問先はヘルシンキ、ユヴァスキラ、サユナツァロ、トゥルク、パイオミの5都市で、約20の作品に接したわけですが、それらの作品に共通した幾つかの手法・思想を見届けることができました。

- (1)自然光の採り入れ方に、トップライトや高窓が有効的に使われている。－ヘルシンキのアカデミア書店のトップライトは素晴らしいものでした。写真は、ユヴァスキラのカルチャーセンターのホワイエの高窓です。全体のスケールのバランスがとても良く、高窓からふりそそぐように光が入ってくる様子は絶妙で、「白いインテリア」を一層白く輝かせています。
- (2)照明計画に、建築化間接照明法のコーニス（壁）、コープ（天井）が多用されている。－ヘルシンキのハウス オブ カルチャーの劇場客席を取り巻く壁に、ウォールウォッシャー的に光が降りる様子は、とても優しく、柔らかなインテリアをつくり出していました。
- (3)窓開口の設計に、大開口（床から天井まで）によって自然を取り込む、いや、むしろ、自然と一体に生活する姿勢がある。－ユヴァスキラ教育大学のエントランスホールの窓は、地面から1段下げた風として、外の松と白樺の林と見事に一体化したインテリアをつくり出していました。

等々、初めて接したA・アアルトは、まだまだ奥が深いぞと思う今回の旅でした。

第2回フォーラム『JIDを考える』を開催

座長 七條 健

平成9年11月16日、大阪デザインセンターの3階会議室において、第2回フォーラム『JIDを考える』を、泉 理事長ご出席の中で開催いたしました。参加人員23名と幾分少なめでしたが、積極的な方々ばかりの参加で、内容は実のあるフォーラムとなりました。

また、新会員の政岡寛之さんが、四国の高知から来られ、地方会員の意気込みを感じさせて頂きました。

関西選出の夏原理事の開催挨拶の後、泉 理事長より第1回フォーラム以降の経過報告があり、管理費を含む財政の健全化、将来に向けた理想的な組織の在り方を審議中であることが、明らかになりました。引き続き、参加者の方々から日頃思っていること、気になっていることをフリートークのかたちで発言して頂きました。

当初は、あきらめムードの中でのフォーラムになるのではと、心配しておりました私の予想は見事に裏切られ、待ってましたとばかりに、積極的な意見、提言が次々とあがり、まさに、踊るが如くに白熱してまいりました。幾つかご紹介したいと思います。

○JIDはこの際、原点に立ち返り、職能集団としての活動に徹して欲しい。



ユヴァスキラのカルチャーセンターのホワイエの高窓

○協会の運営は企業経営と同じである。最小限のコストで最大限の成果をあげる。シビアな経営感覚がないと、運営どころか存続すら難しい。

○金も魅力もない。また、プライドも持てない現在のJIDであるが、やはりなんらかの期待をしてしまう。と、まあ痛烈ですが、その辛口のご意見と裏腹に、暖かい気持ちを感じたのは私だけだったのでしょうか。また、加藤 力さんから「いっそ潰してしまえ」という意見がありそうなのに、それが無かったのは素晴らしいことだ、との応援を頂く場面もあり、場に和やかなムードが広がりました。この他にも多数の建設的なご意見、参加できなかった方々からお送り頂いた、FAXによる提言もありました。

詳細はフォーラムの議事録をお読み頂くとして、この文章から省かせて頂きます。3時間ばかりの短いフォーラムでしたが、混沌とした経済環境の中で、懸命に協会の将来を考えておられる会員に方々、そして、協会の舵とりにご苦労されている理事の方々、一見対立した立場でのフォーラムの様相になりましたが、実は、思うところは同じだと、参加された全員が理解できたように思います。そして今回のフォーラムが、今後の活動に確実に役立つであろうと、実感できた3時間でした。

最後に、関西圏の会員のために遠路お越し頂いた泉 理事長、中川理事にお礼申し上げます。

フォーラムのあとの懇親会、始末記

石原 薫

さて、フォーラムのあと、東京から来られた泉 理事長、中川千早理事を囲んで懇親会を行いました。席は、むやみに、たて長の席で、つまり僕の前に座った中川千早さんと僕とはパーソナルスペースぎりぎりの80cmぐらい。中高年のスキーマの話になり、スキーマ行きの計画が出ました。しかし少し向こうは、何をしゃべっているのか全然解らないが、皆、楽しそうにワイワイガヤガヤ。

ただ、一番奥の壁際では、泉 理事長、山口副理事長、小宮支部長、山崎元理事たちが頭をつき合わせ、JIDの将来を何やら熱心に話されている様子が伺えました。

最後は地下のシャッターが降りるのを押えてもらって、総勢20人、店を飛び出すといった有様でした。



右・泉 理事長、左は座長の七條 健会員



フォーラム参加者の1コマ



フォーラム後、船場センタービルの「もりもり食堂」にて

FUKUOKA デザインリーグ '97を終えて

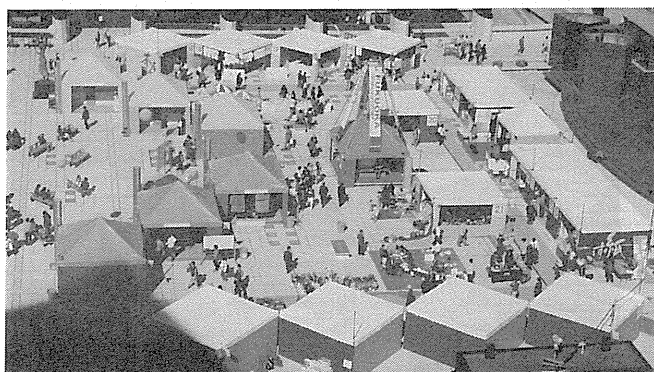
デザインライブ（あんたもかたらんね）

展覧会委員長 川崎 泰秀

去る11月1日～3日、福岡市市庁舎西側広場において、第2回目の「FUKUOKA デザインリーグ」が開催されました。'97年度から福岡市経済振興局経済政策課に、全体的な組織スリム化の中で、係長クラスの専任デザイン政策担当者が配属されたことは、同市のデザインに対する関心の高さと、積極性が如実に示されていると共に、デザインリーグを主催者として、今後数年に渡り遂行していく意思の表出と評価できます。

去年は、アクロス福岡のギャラリーや小ホールを会場として、各展示やワークショップ等の催しを行いました。一般市民の来場者を期待した割には、会期が長過ぎたこともあって、盛り上がりには欠けたものとなりました。このような反省に基づいて、今年は屋外で仕掛けようと思志統一が出来、されば市役所西側に絶好の広場があるのではないかと、ここまではスムーズに話は進みました。では、何をどのようにとなると、大方そうであるように、仲々アイデアがまとまりません。

紆余曲折の末、「デザインマーケット・デザインキャンプ・街角デザイン探検隊」の3本の柱が決定し、各デザイン団体が希望する柱に、それぞれの企画で参加することになり、JID九州事業支部は、デザインマーケットに加わることにしました。



福岡デザインリーグ '97会場全景(福岡市役所前広場)

約18平方メートルのフォーリー（あづまや）を23棟設置、各団体に2棟の割当となり、私たちは「神無月・木組の見世」と「家具と語ろう！」のタイトルで参画。

神無月・・は、組立て式の小物家具、ミニチュアの椅子の工作。各30セット加工、製品化し廉価で販売しました。消化できない場合のリスクを持ちながらの見世でしたが、会員の力作と卓越した販売能力？により、概ね目標数量を突破し、お茶代ほどの黒字をもたらしました。

一方、「家具と語ろう」において中川、山永、伊藤、森、佐藤、関光、松岡、各会員の作品展示を行い、来場者の熱心な質問を浴びるという一幕もありました。

次に、イベントの全体像をご理解頂くため他団体の取組みをご紹介します。

① デザインマーケット

グラフィックデザイナー協会が限定版ポストカード販売「福岡ん!?ポストカードの店」直接描いた1点物のTシャツ展示販売の「1枚のTシャツ店」。インテリアプランナー協会は、インテリアの有害な臭いの考察「体験・かおりと健康」と「ハーブ園とインテリア作成体験」。九州デザインコミッティは、紙すきの実演、即売「紙・デザイン その優雅な世界」と鏡を使ったトリックディスプレイ「鏡の館」加えて唯一の食べ物屋台で、キャラクターお好み焼き・おでん「HOT 茶屋」。デザイン系学生有志による、学生作品の展示販売「出前します；大学祭」。さらに、デザイン系企業による「デザイン関連企業展示」。

② デザインキャンプ

福岡CG協会がオリジナルCGをTシャツにプリントする「CGアート塾」。福岡広告協会はビール各社の広告戦略をサカナに「ADアート塾」。建築家協会が建築に関する身近なテーマ毎の市民講座「建築塾」。ディスプレイ系によるスペースデザイン塾。学生対象のテーマ付



最終日に集まった会員の面々

のポスターデザインコンペ「学生デザイン塾」。

③ 街角デザイン探検隊

サインデザイン協会の、視聴覚が不自由になった場合の街を体験し、デザインを考える「街角デザイン探検隊」。インテリア産業協会が、ショールーム探検と、コーディネーターのインテリア講座「夢の住まいをつくり隊」。ディスプレイデザイン協会は、市中心部のショーウィンド最前線チェック「ディスプレイのぞき隊」。

以上、盛り沢山のメニューで、やや散漫なきらいと、屋外イベントでお祭り要素が入りすぎて、内容・質の側面で少し反省材料が残りました。しかし、大変多くの来場者を得たことは、大きな成果であり、「でざいん縁日」は、ひとまず成功したと評価されてよいでしょう。

また、デザインリーグ実行委員会の組織は、各デザイン団体とフリーデザイナー等で構成されていますが、ジャンルを越えたデザイナーがこのリーグに関わり、討議を積み重ね、杯を酌み交わすうちに横軸のネットワークが芽生えつつあります。

次のデザインリーグには、質・内容を重視した企画を望みたいものですが、そのためにもJID九州事業支部の恒常的な活動の中に、時代に応じた様々なテーマの研究會や勉強會を考えて行ければと思います。

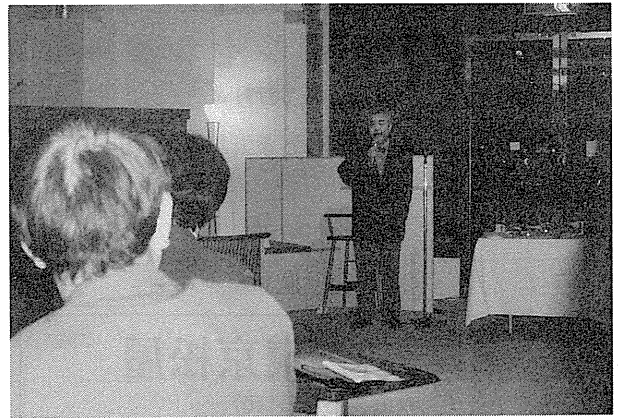
今回の「木組の見世」で作品製作に協力を頂いた山永、溝口、森、松本、飯田、各会員と九州造形短大の学生さん、そして会期中に当番として延べ40名の会員の皆様が参加して盛り上げてくれましたことと、さらに3日間の好天をもたらしてくれた天に深く感謝いたします。

平成9年度第3回「例会」の開催を担当して

稲田 昭

平成9年11月7日(金)17:00~19:00 九州事業支部、新方式の持ち回り「例会」第3回目を、九州の玄関である北九州市にて開催いたしました。

例会開催担当に、指名された私たちは、いかなる形式で例会を行うか？会員の皆様の貴重な時間をいかに価値ある時間にすると大変戸惑いました。開催テーマを2~3立案した中から、私の友人であり、岩倉ブランド（岩倉榮利 JID 会員・理事）の「ロックストーン」



会場にてレクチャーをする岩倉榮利会員

「高山ウッドワーク」の九州総裁代理店である、L. D. C. (株)の溜谷氏の協力を得て、岩倉ブランドの作品展示場にて例会を行うことに決定いたしました。

会場（展示場）は、北九州市小倉新幹線駅前のリーガロイヤルホテル1階ショップ棟にあり、遠隔地の方々にも便利であり、例会の場所としてはうってつけと我ながら満足。いまひとつ発展的に考えて、外のデザイナー（建築家、コーディネーターなど）も含めての交流をこの場所で持てるなら、なお一層盛り上がるのではないかと？ 作者である岩倉さんがこの場所に出席可能ならばと、徐々にこの企画はエスカレート、岩倉さんとコンタクトを取り、予定通り、岩倉さん出席のもとで開催されました。

岩倉さんの話は「デザインとクラフトマンシップの融合」というテーマで、新しいブランドである「高山ウッドワーク」の一連の作品が生まれたこと、デザインマインド及び、熟練した高齢家具職人のクラフトマンシップの出逢い等の話があり、大変興味深い、今後の業界の方向を感じさせる中味の深い話でした。

当日はあいにく、FUKUOKA デザインリーグの会合とバッティングし、会員の出席が数名であり、岩倉さんを大いに歓迎するつもりでしたが、出席者が少なかったことが残念です。

私は、持ち回り例会の意義を理解しながら、不参加のナンバーワンでしたが、今回義務的に役回りが来て、日頃の役員の方々のご苦労が良く理解出来ました。

しかし、今回の例会は、JID 会員のみの例会でなかったことで、会員外の交流が行われ、良い意味で会に新しい風が吹き込まれたように思います。

(株)東京デザインセンター

(会員番号 3077)

〒141-0022 東京都品川区東五反田 5-25-19
TEL 03-3445-1121 FAX 03-3445-1125

社長 船曳鴻紅

東 リ 株式会社

(会員番号 3083)

〒105-0021 東京都港区東新橋2-10-4 東リ東京ビル
TEL 03-5403-2067 FAX 03-5403-2092

東日本営業開発部 部長 吉村 裕

株式会社 東京松屋

(会員番号 3140)

〒110-0015 東京都台東区東上野 5-4-14
TEL 03-3842-0501 FAX 03-3844-3106

ト キ ワ 工業(株)

(会員番号 3084)

〒140-0002 東京都品川区東品川 3-18-11
TEL 03-3472-3931 FAX

東京営業部課長 小野川茂

東陶機器株式会社

(会員番号 3080)

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 2-8-1
TEL 0467-54-3317 FAX 0467-54-1173

マーケティング本部 デザイン部 デザイン企画室 奥村文雄

株式会社 トミタ

(会員番号 3085)

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-3-16
TEL 03-3273-7551 FAX 03-3278-0185

東京営業部 取締役常務 富田順三

東北工科情報専門学校

(会員番号 3081)

〒981-0943 宮城県仙台市青葉区国見 6-45-16
TEL 022-233-7951 FAX 022-274-0444

インテリア科長 及川 仁

(株)ナショナルトレーニング

(会員番号 3086)

〒106-0047 東京都港区南麻布 4-5-2
TEL 03-3442-4791 FAX 03-3447-4048

取締役 木塚義紀

東洋美術学校

(会員番号 3082)

〒162-0067 東京都新宿区富久町 2-6
TEL 03-3359-7421 FAX 03-3359-4747

短期デザイン科 インテリアデザイン専攻

株式会社日建スペースデザイン

(会員番号 3088)

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-4-19 セタニビル
TEL 03-3264-6609 FAX 03-3264-6697

取締役 東京設計室担当 浦 一也

1997/12～1998/1

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (1998 年通巻 200 号) 1998 年 1 月 27 日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/泉 修二

〒160-1008 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/JID 本部・事務局 印刷所/有限会社 コーエイ企画